

アシスト 旭山動物園に道バリ寄贈 観光客らに北海道をPR

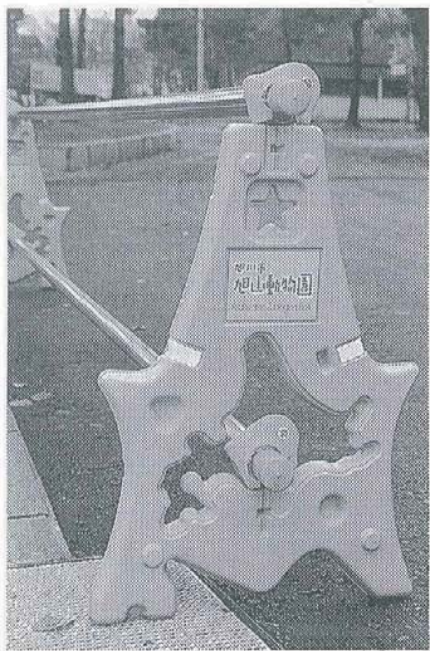
建設保安用品レンタルのアシスト（本社・北広島）は、北海道をかたどった単管バリケードの「道バリ」を旭山動物園に寄贈した。木村富津夫社長は「海外からも大勢の観光客が訪れる動物園で、北海道のPRにひと役買えたら」と話す。坂東元園長は「園内では仕切りが必要になることが多いので、助かります」と感謝していた。

「道バリ」は、北海道のPRと建設現場のイメージアップを狙った同社オリジナル商品。スタンド部は明るい緑色

の高密度ポリエチレン製で、上部に開拓史のマークである星形、中央部に北海道の形をくり抜いた。ことし2月のさ

つぼる雪まつり大通会場では、車両の通行止めに活用されている。今回は、旭山動物園のステッカーを付けた特別製を40ツト、延べ160分寄贈した。動物園では工事場所や車場の仕切りなど、来園者安全を確保するバリケード

必要になる場面も多い。2に動物園を訪れた村社長から目録を渡した。坂東園長は、「定感がある道バリ寄贈に感謝した。現在レンタルしている道バリは、道許可を得て「試さる大地」のステッカーを張っているが、木村社長は「より内各地域に密着しデザインも検討していきたい」と魅力の製品開発に余念ない。（旭川



動物園のステッカーを付けた道バリ



坂東園長に目録を渡す木村社長（左）

旭川